



一般社団法人日本トーゴ友好協会の活動報告

－宮崎県日向市・トーゴ共和国間ホストタウン事業－
金岡保之

An activities report of Japan-Togo Friendship Association
— Hyuga host town project for Togo —
Yasuyuki KANAOKA



2021年1月23日
宮崎大学 地域資源創成学部 准教授
一般社団法人 日本トーゴ友好協会 会長
金岡 保之

目 次

序 章

第1節 はじめに

第2節 日本トーゴ友好協会について

第1章 国際交流

第2章 国際協力

第1節 井戸修復・掘削による国際協力

第2節 トイレ建設による国際協力

第3節 図書寄贈による国際協力

第4節 学校建設による国際協力

第3章 国際教育

第1節 宮崎大学における国際教育

第2節 日向高校における国際教育

第3節 高鍋農業高校における国際教育

第4章 まとめ

資 料

序章

第1節 はじめに

宮崎大学地域資源創成学部、紀要第4巻号の寄稿にあたり、主に¹紀要第2巻号以後の一般社団法人日本トーゴ友好協会（以下、日本トーゴ友好協会）の2年余りの活動を纏めた。日本トーゴ友好協会は、2011年11月11日に発足して以来、細々と活動を続けてきた。日本の皆様に、アフリカ・トーゴ共和国²の魅力を知ってもらう目的で、トーゴ共和国でのインターンシップを経験者した学生たちと教育機関や公共機関での講演会などのイベントなどの活動を中心に行ってきた。

2015年から日本トーゴ友好協会会長である筆者が宮崎大学地域資源創成学部で教鞭を執っているため、日本トーゴ友好協会の拠点を兵庫県から所属の宮崎大学地域資源創成学部金岡研究室内に移し、2019年5月22日に一般社団法人となった。これまで、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の宮崎県日向市・トーゴ共和国間ホストタウン登録を契機に、様々な事業に取り組んできた。

本文では、主に日向市におけるトーゴ共和国との国際交流・国際協力・国際教育の3分野での取り組みの変遷について記録した。

第2節 日本トーゴ友好協会について

1. 設立の目的

日本に馴染みのない西アフリカのトーゴ共和国の魅力をも日本国民に広報すると同時に、トーゴ共和国での支援活動を行う。

2. 日本トーゴ友好協会の理念

当協会は、トーゴ共和国の魅力をも自然、人々の暮らし、歴史、文化、民族などを通じて、より多くの日本国民に発信し、親しみを持ってもらえるように広報活動を行うことを目的として活動している。

トーゴ共和国は西アフリカに位置し、日本人にとっては遠いイメージがある。しかし、国民性は明るく、平和な国で、コーヒーやカカオ、綿花などの農産物や、リン鉱石などの天然資源にも恵まれているなど、限らない可能性と魅力を備えた国である。多くの日本人に「アフリカの笑顔」と呼ばれるトーゴ共和国の魅力をも発信していくことが、当協会の使命である。

また、トーゴ共和国は後発開発途上国（Least developed country、略語：LDC）であるため、社会基盤としてのインフラ整備の必要性が急務である。そこで、日本トーゴ友好協会としても、ドナーを募り安全な水の供給や図書への寄贈などの支援活動を行っている。

3. 設立の動機

日本トーゴ友好協会は、駐日トーゴ共和国大使館スティーブ・ボジヨナ（Steve Bodjona）臨時代理大使（以下、ボジヨナ前大使）（当時）の提案により2011年11月に設立された。当協会設立者兼会長の筆者とトーゴ共和国との出会いは、かねてより親交のあった津田祐可子氏が駐日トーゴ共和国大使館の秘書として採用されたことがきっかけである。筆者は、国際ロータリークラブ³でロータリー財団国際親善奨学生である津田氏のカウンセラーであった。津田氏の紹介により筆者とボジヨナ前大使の間に交流が生まれ、日本トーゴ友好協会を設立する運びとなった。

¹2019年度紀要第2巻号、金岡保之著、テーマ：「アフリカ・トーゴ共和国における国際協力・支援について～日本トーゴ友好協会の活動報告～」

²トーゴ共和国（トーゴきょうわこく、フランス語：République Togolaise）、通称トーゴは、西アフリカに位置する共和制国家。東にベナン、北にブルキナファソ、西にガーナと国境を接し、南は大西洋のギニア湾に面する。首都はロメ。南部は高温多湿の熱帯性気候。北部はサバナ気候で南部より雨量が少なく、湿度も低い。

³国際ロータリー第2680地区 宝塚武庫川ロータリークラブに2000年6月1日に入会。

第1章 国際交流

2017年7月の日向市との交流のきっかけとなったトーゴ大使館のセダミヌ臨時代理大使（以下、セダミヌ大使）の宮崎県訪問から2019年12月の日向市のホストタウン登録を経て、これまでの交流について整理してまとめた。

1. 最初の交流（2017年7月）

2017年7月に筆者がJICA本部（東京）の資金提供を得て、筆者の研究テーマである「地域の国際化」の一環で、セダミヌ大使を宮崎県に初めて招聘した。セダミヌ大使は宮崎大学を訪問し、池ノ上克学長の表敬訪問や筆者の担当授業の「グローバル・コミュニケーション」の授業にゲストスピーカーとして参加し、学生にトーゴ共和国の魅力などの紹介をした。その後、日南市、門川町、日向市を訪問した。日向市では、トーゴと語感が似ている旧東郷町にある坪谷小学校の児童による牧水詩歌熱唱を通じて日本文化の交流を行なった。十屋幸平市長の表敬訪問の市長室で、セダミヌ大使は日向市の伝統舞踊である「ひょっこ踊り」を十屋幸平市長と一緒に踊るなどして交流を深めた（図1）。

2. 日向市のトーゴ共和国・ホストタウン登録（2018年12月）

日向市におけるトーゴとの交流を、筆者が研究室のソーシャルメディア等で公開をしていたが、当時内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局（以下、内閣官房事務局）の担当者が発見し、日向市に対しトーゴのホストタウン登録を提案した。内閣官房事務局より提案を受けた日向市はホストタウンの登録申請を行い、2018年12月28日付でトーゴを相手国とするホストタウンに登録された。

3. 女性アスリートモデル事業（2019年3月）

2019年3月6日～10日、トーゴ共和国から女性アスリート（マラソン五輪候補者）、音楽パフォーマンスや大使館外交官を含むトーゴ訪問団が日向市を訪問し、市民らと交流を行った。この交流は内閣官房事務局が資金を提供して、地域に共通する課題やノウハウを抽出し、他のホストタウンのモデルとなる事例を提示することや、途上国の女性アスリートの参加を促進することを目的として実施された。

日向市では小学校、高校などの教育機関に訪問し生徒と交流を行い（図2）、また伝統工芸家や美々津地区、日向市役所の十屋幸平市長を訪問した。また、元オリンピックの谷口浩美宮崎大学教授によるマラソン指導が行われた。翌日、日向市主催の「第25回日向ひょっこマラソン IN 日向岬」に女性アスリートのベタ氏がマラソンで市民と交流した。

4. ボジョナー前大使の宮崎訪問（2019年8月）

2019年8月9日～10日、筆者は、トーゴからの第7回アフリカ開発会議（以下、TICAD7）の大統領特使として来日中のボジョナー前大使を宮崎県に招聘した。ボジョナー前大使は宮崎大学の池ノ上克学長を表敬訪問した。また、ボジョナー前大使は、宮崎大学金岡研究室ゼミ生（以下、ゼミ生）や留学生と異文化交流を行なった。翌日、日向市の十屋幸平市長を表敬訪問し、日向市役所、日向駅や日向の観光名所などを視察した。

5. トーゴ共和国大統領に謁見（2019年8月）

2019年8月28日～30日に東京・横浜で開催されたTICAD7で、フォール・ニヤシンベ大統領（以下、ニヤシンベ大統領）と十屋幸平市長、筆者による会談を行なった（図3）。その後、トーゴ訪問団が日向市を訪問し、市民交流が実施された。

6. TICAD7 サイドイベント (2019年8月)

内閣官房事務局主催の「ホストタウンで繋がる日本とアフリカ」で、日向市の任意団体「橘ひょっとこ踊り保存会」やジャンベ演奏チームの「B-Bross」が、トーゴ共和国から招聘された音楽パフォーマーのパスカル氏やトーゴ日本友好協会のダケ氏らと共に、2019年8月28日～30日の3日間、会場でパフォーマンスを演じた。

7. 3者による相互協力協定の締結 (2020年9月)

2020年9月29日、日向市役所において日向市・トーゴ大使館・日本トーゴ友好協会の3者による相互協力協定締結式が行われた。十屋幸平市長、セダミヌ臨時代理大使、筆者が出席し協定に調印した(図4)。協定の連携事項は、「未来へつなげる人材育成に関すること」「元気で活力のある産業振興に関すること」「笑顔で暮らせる安心なまちづくりに関すること」「多文化共生、国際交流のまちづくりに関すること」である。

本協定を契機に、日向市は日本トーゴ友好協会の賛助会員となり、3年間にわたり日本トーゴ友好協会に寄付し、トーゴ共和国における国際協力活動を支援する。このように相互協力協定を締結されたことで、日向市・トーゴ大使館・日本トーゴ友好協会の連携が強化され、日向市はホストタウン受け入れ地方自治体としては珍しく国際協力事業のフェーズに入った。



図1：ひょっとこ踊りによる交流



図2：東郷学園小学校での国際交流

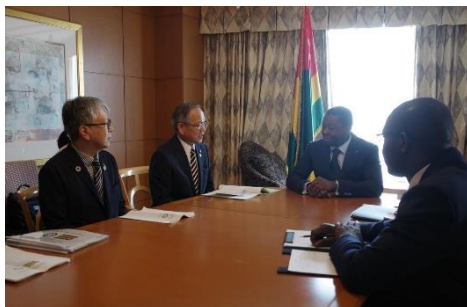


図3：TICAD7時にニヤシンベ大統領との会談



図4：相互協力協定締結式での調印

第2章 国際協力

2020年9月30日に、2020東京オリンピックパラリンピック・ホストタウンでの連携をさらに強化するための、日向市・駐日トーゴ大使館・一般社団法人日本トーゴ友好協会との3者による相互協力協定締結式が行われた。その協力協定に基づいてトーゴ共和国において国際協力事業を行うことになった。初年度の2020年度事業は「安全な水供給」「トイレ建設」「図書寄贈」の3事業で、各協力事業を2020年12月から行っている。

また、日向市の寄付を元に宮崎アカデミーロータリークラブ（以下、宮崎アカデミーRC）にも当クラブの会長を務める筆者はクラブから寄付を求め日向市と宮崎アカデミーRCの共同事業とした。そうすることで、筆者は国際NPOであるロータリークラブにもトーゴの支援の輪が広がると考えたからである。

第1節 井戸修復・掘削による国際協力

日本トーゴ友好協会はこれまで、ロータリークラブなどのドナーから寄付を募り壊れた井戸の修復を行ってきた。ホストタウン事業に関連する国際協力事業として、1基の井戸修復を行うとともに、さらにもう1基の井戸掘削を計画している。

1. アティテコペ村 (Attite Kope) 井戸修復事業 (2020年12月)

アティテコペ村は、首都ロメから北西へ約65kmに位置し、人口約500人の集落である。

当村で、現地の連携NPOの「SDD-Togo (Laurent Dakey 代表)」が、2020年12月から井戸の修復を行っている。当村の壊れた井戸を修理して、約500人の村人に安全な水を供給する目的。ドナーは宮崎県日向市と宮崎アカデミーロータリークラブ (RI2730 地区) (図5)。

2. クタバペ村 (Kpadape) 井戸掘削事業 (2021年に計画)

クタバペ村は、首都ロメの北西約150km、隣国ガーナ国境近くに位置し、人口約5,500人で小学生が約500人の集落である。

支援は、国際ロータリー第2730地区（以下、RI2730地区）の地区補助金を活用した、宮崎アカデミーRCの単独事業として計画している。現地協力団体は、リテラル、ロメパール (Lome Pearl) ・ロータリークラブ (以下、ロメパールRC)

第2節 トイレ建設による国際協力

アティテコペ村トイレ建設事業 (2020年12月)

アティテコペ村で、SDD-Togoが、2020年12月から井戸の修復を行っている。当村に新しくトイレを建設して、約500人の村人の感染症などのリスクを軽減する。ドナーは宮崎県日向市と宮崎アカデミーRC (図6)

第3節 図書寄贈による国際協力

1. アティテコペ村他 図書寄贈事業 (2020年12月)

(1) ケボジグベ (Kebodzigbe) 小学校図書寄贈事業 (2020年12月)

現地の⁴連携NPOの「リテラル (ボジョナ前大使代表)」による図書寄贈を行なった。

2020年12月19日、クロト県ケボジグベ小学校と他1校に合計232冊の本を寄贈した。

ドナーは宮崎県日向市と宮崎アカデミーRC (図7)

(2) ソトボウア図書館図書寄贈事業 (2021年1月)

リテラルによる図書寄贈を行なった。2021年1月5日にソトボウア図書館 (Sotouboua

⁴リテラルは、トーゴ共和国大統領外交顧問で、前駐日トーゴ共和国大使館臨時代理大使のスティーブ・ボジョナ (Steve Bodjona) 氏が代表を務めるNPO法人

Library) に144冊の本が寄贈した。ドナーは宮崎県日向市と宮崎アカデミー RC
(3) ガメリリ中学校図書寄贈事業 (2021年1月)

リテラルによる図書寄贈を行なった。2021年1月9日にガメリリ中学校(生徒数約250人
CEG Game-Lili)に118冊の本が寄贈した。ドナーは宮崎県日向市と宮崎アカデミー RC
(図8)

2. クタバベ村図書寄贈事業 (2021年に計画)

クタバベ村には約500人の小学生がおり、教育のための教材は不足しており、フランス語で書かれた教科書等の図書は希少である。そこで子供たちの教材としての図書を寄贈する計画である。

支援は、RI2730地区の地区補助金を活用した、宮崎アカデミー RCの単独事業として計画している。現地協力団体は、リテラル、ロメパール RC。

第4節 学校建設による国際協力

クタバベ村には約500人の小学生がおり、学びの場である教室が不足している。小学生が50人程度収容できる簡易な教室を建設することで、子供たちの学びの場を提供する計画である。

支援は、RI2730地区の地区補助金を活用した、宮崎アカデミー RCの単独事業として2021年に計画している。現地協力団体は、リテラル、ロメパール RC。



図5: アティテコベ村井戸修復事業



図6: アティテコベ村トイレ建設事業



図7: ケボジグベ小学校図書寄贈事業



図8: ガメリリ中学校図書寄贈事業

第3章 国際教育

筆者は、大学教員であることから、国際交流から国際協力へ事業が広がっていく中、事業に研究室のゼミ学生や地域の高校生を巻き込むことで、生きた教育になると考えた。日向市の協力もあり、日向高校や高鍋農業高校と連携して様々な事業を計画して実践した。

高大官連携による国際教育分野のPBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）は、プロジェクトに参加して、実践的に学ぶことができる教育として地域に広がりつつある。そして、地域の中学校の⁵総合学習などの授業にも取り入れたいと依頼があり、現在来年度の授業に向けて検討を開始している。

第1節 宮崎大学における国際教育

1. ゼミ活動

(1) ヘトウィ村 (Hetowui) 井戸修復プロジェクト (2019年12月)

ヘトウィ村は、首都ロメの北西約60kmに位置し、人口約460人の集落である。

当村で、SDD-Togoが、2019年12月に井戸の修復を行った。当村の壊れた井戸を修理して、約460人の村人に安全な水を供給する目的。ゼミ生はプロジェクトに加わり、遠隔によるプロジェクトの運営を行なった。完成後、プロジェクトに関わった団体の日本トーゴ友好協会、宮崎県日向市、宮崎大学金岡研究室の名前が井戸の外壁に記載された。

(2) 大学SDGs ACTION! AWARDS 2020 (2020年3月)で受賞

ゼミ生の柳田竜也(当時3年生)、黒木葵(当時2年生)の2名が「大学SDGs ACTION! AWARDS 2020」(朝日新聞社主催、文部科学省・外務省他後援)の最終選考・プレゼンテーション大会(東京)で、ファイナリスト賞を受賞した。テーマは、「アフリカへの人道支援を通じたグローバル教育の実践ートーゴ共和国の井戸修復プロジェクトー」

2. 各種国際イベント開催・協力

(1) 女性アスリートモデルプロジェクト (2019年3月)

ゼミ生は、「第1章 国際交流」でも述べたトーゴ訪問団の日向市での活動を記録に残し、ICTを活用しソーシャルメディア等で動画や記事を多言語で発信した。また、トーゴ訪問団が宮崎大学を訪問した際、「異文化交流会」を開催しトーゴと宮崎の双方の文化などの魅力を交換した。(図9)

(2) ボジョナ前大使の宮崎訪問

2019年8月9日～8月10日、筆者はトーゴ共和国大統領特使(TICAD7)として日本に滞在中のボジョナ前大使を、宮崎にはじめて招聘した。その後、宮崎大学で金岡研究室主催の「国際交流セミナー」にボジョナ前大使を招いた。その際、ボジョナ前大使は池ノ上学長への表敬訪問、ゼミ生による交流会での講演、日向市十屋市長への表敬訪問や日向市内の視察などを行った。

(3) ALL Miyazaki スポーツ&ホストタウンフェスタ 2020

2020年11月3日、宮崎県主催イベント「ALL Miyazaki スポーツ&ホストタウンフェスタ 2020」の日向市のブースに参加し運営協力した。宮崎県日向市がトーゴ共和国のホ

⁵総合学習とは、正式名称を総合的な学習の時間と言い、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする。ことから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。

スタウンブースを設置し、交流の取組みに関する展示やトーゴ民芸品・楽器の展示を行い、来場者にホストタウンの活動報告をした。(図10)

3. 担当授業での講義

昨年度より筆者が、担当する授業で機会があるたびに下記の担当授業で本事業について事例研究の教材として取り入れて⁶講義した。例えば、「大学教育・専門教育入門セミナー」「グローバルコミュニケーション」の授業では国際交流や国際協力について、「経営戦略特論」や「プロジェクトマネジメント論」では国際NGOの経営や運営について、「ICTと地域産業」「ICTの地域活用」では国際NGOの組織におけるICTの活用法についてなどである。

第2節 日向高校における国際教育

高大官連携・異文化理解セミナー

2020年1月16日、「高大官連携・日向高校課題型学習 異文化理解セミナー」を宮崎大学で開催した。日向高校フロンティア科教員・生徒、日向市職員が宮崎大学を訪問し、ゼミ生や留学生を加えた高大連携授業 日向高校課題型学習「異文化理解セミナー」を実施した。その模様は当日のNHK 宮崎のニュースで紹介されたほか、毎日新聞にも記事として掲載された。

第3節 高鍋農業高校における国際教育

1. 2020年2月28日、「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」で受賞

内閣官房事務局主催「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」にて、高鍋農業高校・宮崎大学・日本トーゴ友好協会・日向市のトーゴ宮崎県チームが「審査委員特別賞」を受賞した。

2. ALL Miyazaki スポーツ&ホストタウンフェスタ2019

2019年11月3日～11月4日、宮崎県主催イベント「ALL Miyazaki スポーツ&ホストタウンフェスタ2019」の日向市のブースに参加し運営協力した。宮崎県日向市がトーゴ共和国のホストタウンブースを設置し、交流の取組みに関する展示やトーゴ民芸品・楽器の展示、交流の様子を写した動画の放映を行った。また、高鍋農業高校がメニュー開発をした宮崎県産のGAP食材を使用するトーゴ料理をふるまった。

3. 出前授業

2019年6月26日、高鍋農業高校で出前授業を行った。3年生25名に「ICTを活用した宮崎の魅力を国内外に発信する試み ～門川町と日向市の事例～」の研究プロジェクトにおいて海外への情報発信の重要性について、ホストタウン事業を事例として講義した。



図9：宮崎大学でトーゴ一行・ゼミ生交流会



図10：スポーツ&ホストタウンフェスタ2020

⁶ 講義した授業は、大学教育入門セミナー、専門教育入門セミナー、企業マネジメント概論、経営戦略論1、経営戦略論2、経営戦略特論、ICTと地域産業、ICTの地域活用、グローバルコミュニケーション、企業マネジメント実践1から3、交流マネジメント概論、プロジェクトマネジメント論

第4章 まとめ

これまで、日本トゴ友好協会は、国際交流や国際協力を中心に活動してきたが、今後は県内の教育機関とも連携して、国際教育の分野で「異文化理解」や「多文化共生」のテーマについて、さらに活動を加速させていきたい。具体的には、ホストタウン事業での国際交流や国際協力で得られた知見や成果を、⁷ケースメソッド教育などの教材として活用する。ゼミ生が、担当の教員の指導の下に教育教材を作成し、県内の中学や高校に出向き授業補助などを行う。

また、日本トゴ友好協会は生徒・学生が自ら発案した国際交流や国際協力分野のアイデアを実現するための支援を行う。そうすることによって、「国際交流」「国際協力」「国際教育」が一体となって循環する仕組みが生まれ、地域に国際化の土壌が形成される。このように、日本トゴ友好協会が、地域の国際化の研究を行なっている金岡研究室に設置されたことで、研究室と一体となって大学や地域の国際化に貢献すると推測する。また、今後の取り組みとして、下記の事業を計画している。

1. 門川中学校の2年生約150人の生徒に対して、英語、道徳、徳育、総合学習の4教科において、ゼミ生が国際教育の教材作成し提供する。また、ゼミ生が授業の中で班のファシリテーターの役割を果たす計画である。この内容で大学SDGs ACTION! AWARDS 2021に応募する。
2. 宮崎アカデミー RC 地区補助金事業（計画中）
宮崎アカデミー RC や RI2730 地区の協力を得て、クバダベ村の「教育支援事業」として、村に井戸掘削、トイレ建設、学校建設の事業を行い、村の子供たちの教育環境を整備する。予算規模は70万円。
3. 外務省 ODA 草の根事業（計画中）
トゴの村の「教育支援事業」として、村に井戸掘削、トイレ建設、学校建設の事業を行い、村の子供たちの教育環境を整備する。予算規模は1千万円。

上記は、全て具体的な事業として計画され、一部は活動をすでに開始している。来年もしくは遅くとも再来年には終了する計画である。

⁷ケースメソッド教育とは、「討議用ケース」を用いて行う討議型授業をつなげてカリキュラムを構成していく教育形態の総称

宮崎大学地域資源創成学部紀要 第4号

資料1：ホストタウン活動年表

日向市・トーゴ共和国間ホストタウンの国際交流・国際協力に関する活動をまとめた年表（2017年3月～2020年9月）		
年月日	主要イベント	概要
20.09.29	相互協力協定締結式	日向市にて日向市・駐日トーゴ共和国大使館・一般社団法人日本トーゴ友好協会による相互協力協定締結式が行われた。その記念事業として、トーゴ共和国の約400人規模のアデコベ村の井戸を修復するプロジェクトを発表した。なお、トーゴ共和国大使館はリモートで協定式に同席し協定を結んだ。
20.09.08	宮崎アカデミーロータリークラブの井戸修復プロジェクトへの参加決定	金岡准教授が宮崎アカデミーロータリークラブ第5回例会にて会員に井戸修復プロジェクトへの参画を提案し、承認された。
20.08.06	支援プロジェクトについて会議	金岡研究室と日向市職員がトーゴ共和国支援のプロジェクトについてオンライン会議を実施。
20.02.28	「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」で受賞	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局主催「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」にてトーゴ宮崎県チームが「審査委員特別賞」を受賞。
20.01.17	表敬訪問	日向市職員と金岡准教授、金岡研究室ゼミ生が内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局、トーゴ共和国大使館、外務省アフリカ第1課、大臣官房総務課地方連携推進室に表敬訪問し情報共有を行った。
20.01.16	高大連携授業「異文化理解セミナー」	日向高校フロンティア科教員・生徒、日向市職員が宮崎大学を訪問し、金岡研究室を加えた高大連携授業「日向高校課題学習「異文化理解セミナー」」を実施。
20.12.16	「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」へのエントリー	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局主催「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」の応援投票を開始。宮崎県立高鍋農業高等学校・宮崎県・日向市・宮崎大学が連携したチームが「トーゴの皆さん東郷(とうごう)へいらしゃーい！日向で家にいるかのようなおもてなし」のメニューをエントリーした。
19.12.08	井戸修復プロジェクトの完了	トーゴ共和国のヘトウィ村の井戸修復プロジェクトが完了。ヘトウィ村の村民約460名分の飲み水の確保を実現。寄付をした一般社団法人日本トーゴ友好協会、宮崎県日向市、宮崎大学金岡研究室の名前が井戸の外壁に記載されている。
19.11.29	意見交換会	日向市役所にて日向市総合政策課と宮崎大学金岡研究室がトーゴ共和国とのホストタウン交流事業計画について意見交換。
19.11.27	井戸修復プロジェクトの開始	トーゴ共和国のヘトウィ村の井戸を修復するプロジェクトが開始。一般社団法人日本トーゴ友好協会、一般社団法人日本トーゴ友好協会がプロジェクトを立ち上げ、トーゴ共和国現地のNPO法人SDD-TOGOが井戸修繕の役割を担う。
19.11.03~19.11.04	宮崎県主催イベント「ALL Miyazaki スポーツ&ホストタウンフェスタ2019」	宮崎県がホストタウンイベント「ALL Miyazaki スポーツ&ホストタウンフェスタ2019」を開催。宮崎県日向市と宮崎大学金岡研究室が共同でトーゴ共和国のホストタウンブースを設置し、交流の取組みに関する展示やトーゴ民芸品・楽器の展示、交流の様子を写した動画の放映を行った。また、高鍋農業高校がメニュー開発をした宮崎県産のGAP食材を使用したトーゴ料理をふるまった。
19.08.31	日向市主催イベント「ダンスDE国際交流 with TOGO」	日向市主催のトーゴ共和国のミュージシャンであるバスカル氏との音楽交流イベント「トーゴ共和国ホストタウン事業「アフリカ笑顔」が帰ってきた！「ダンスDE国際交流 with TOGO」」を開催。また、トーゴ共和国現地で活動する団体「トーゴ日本友好協会」のダケ会長がトーゴ共和国の文化について市民に紹介した。
19.08.29	ニヤンペ大統領との会談	第7回アフリカ開発会議(TICAD7)の際に、トーゴ共和国 ニヤンペ大統領と日向市十屋市長、金岡准教授が日向市ホストタウン事業について会談。
19.08.28~19.08.30	第7回アフリカ開発会議のサイドイベント「ホストタウンでつながる日本とアフリカ」	第7回アフリカ開発会議(TICAD7)のサイドイベントとして、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が横浜市にて「ホストタウンでつながる日本とアフリカ」を開催。そのイベントで日向市の橋ひよここ語り保存会と西アフリカ音楽演奏グループ「B-bross」、トーゴ共和国のミュージシャンであるバスカル氏がひよここ語りとアフリカ音楽のコラボを披露した。
19.08.09~19.08.10	ステューブ大統領特使が宮崎県訪問	金岡准教授がトーゴ共和国大統領特使(TICAD7)のステューブ・アクレン・ボジョナ氏を宮崎県に招聘。その後、宮崎大学で金岡研究室主催の「国際交流セミナー」に特使を招いた。ボジョナ氏は池ノ上学長への表敬訪問、宮崎大学金岡研究室のゼミ生による交流会での講演、日向市十屋市長への表敬訪問、日向市内の視察を行った。
19.05.29	表敬訪問	金岡准教授と日向市役所職員がトーゴ共和国大使館を訪問しホストタウン交流事業計画について会談。
19.03.06~19.03.10	オリバホストタウンモデルプロジェクトによるトーゴ訪問団の日向市訪問	「女性アスリートモデルプロジェクト」で、トーゴ共和国から女性アスリートやミュージシャンを含む訪問団が宮崎県を訪問。訪問団は、宮崎大学伊丹副学長への表敬訪問、宮崎大学金岡研究室のゼミ生による交流会への参加、宮崎大学特別教授谷口浩美氏からのスポーツ指導への参加、日向市十屋市長への表敬訪問、日向市長との交流、日向市内の視察、日向ひよここマラソンへの参加をした。
19.01.11	表敬訪問	金岡准教授と日向市十屋市長がトーゴ共和国大使館を表敬訪問し、ホストタウンや政府モデル事業について会談。
18.12.28	ホストタウン登録	宮崎県日向市が内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局からトーゴ共和国の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして登録。
17.08.04	表敬訪問	金岡准教授がトーゴ共和国大使館を表敬訪問。
17.07.12~17.07.14	セガミヌ臨時代理大使が宮崎県訪問	金岡准教授がJICA(独立行政法人国際協力機構)の協力を得て、トーゴ共和国大使館のセガミヌ臨時代理大使を宮崎県に招聘し、県内各地(宮崎大学、日向市東郷町、門川町、日南市東郷地区)を訪問した。セガミヌ臨時代理大使は宮崎大学池ノ上学長、日向市十屋市長、門川町安川市長、日南市崎田市長への表敬訪問をする他、大学の授業での講演、小学校や商店街などで市民交流を行った。なお、ここでセガミヌ臨時代理大使と日向市十屋市長が一輪にひよここ語りを語り、これが後のホストタウン登録のきっかけになる。
17.06.23	表敬訪問	金岡准教授がトーゴ共和国大使館に訪問し、来月のセガミヌ臨時代理大使を宮崎県に招聘する件について会談。
17.03.27	表敬訪問	金岡准教授がトーゴ共和国大使館を表敬訪問を行い、新しく臨時代理大使に就任したセガミヌ氏に挨拶を行った。

※この年表は日向市からの配布資料、日向市のホームページ、金岡准教授のFacebookによる活動報告などを参考に作成したものである。

資料2：ホストタウン関連の講義・講演履歴一覧表

講義・講演等の履歴

- 2018.10.23 宮崎アカデミーロータリークラブ卓話「トーゴ共和国における人道的支援活動について」
- 2019.3.6 トーゴ共和国訪問団・トーゴ共和国大使館外交官一行と「国際交流セミナー」 金岡研究室開催（英語）
- 2019.6.26 宮崎県日向市十屋幸平市長とゼミ生「トーゴ共和国・ホストタウン・セッション」 金岡研究室開催
- 2019.7.12 トーゴ共和国起業家 中須俊治氏を招聘「アフリカ・トーゴ理解セミナー」 金岡研究室開催
- 2019.8.9 トーゴ共和国大統領特使（TICAD7） スティーブ・ボジョナ氏を招聘「国際交流セミナー」 金岡研究室開催（英語）
- 2019.9.17 宮崎大学産学・地域連携センター主催「第26回技術・研究発表交流会 プログラム」で「地域の国際化のためのグローバル産学官民連携における大学の役割 ～宮崎県日向市・トーゴ共和国ホストタウンの事例～」をポスター発表及び口頭発表
- 2019.10.29 同志社大学今出川キャンパス "Doshisha Spirit Week 2019 Autumn"チャペルアワーで奨励「西アフリカ・トーゴ共和国における人道的支援活動について」
- 2019.10.30 同志社大学京田辺キャンパス "Doshisha Spirit Week 2019 Autumn"チャペルアワーで奨励「西アフリカ・トーゴ共和国における人道的支援活動について」
- 2019.12.20 中国文部科学省から派遣された中国全大学士教員訪問団に「地域の国際化のためのグローバル産学官民連携における大学の役割～宮崎県日向市・トーゴ共和国ホストタウンの事例～」講義 於）同志社大学ビジネス研究科
- 2020.4.25 NHK外国語放送「ちぎゅラジオ」出演「日本トーゴ友好協会の活動について」

資料3：ホストタウン関連の報道・メディア掲載一覧表

日向市に於ける2020東京オリンピック・ホストタウン事業 (トーゴ共和国) の報道・メディア掲載等

1. 2017/7/13 UMKスーパーニュース 「駐日トーゴ共和国大使が宮崎訪問」
2. 2017/7/13 宮崎日日新聞朝刊 「トーゴ臨時大使が日南・東郷訪問 名前が緑、共通点に親しみ 友好を深めよう」
3. 2018/12/28 NHK宮崎報道局 日向市がトーゴのホストタウンに
4. 2018/12/28 夕刊デイリー新聞 「東京オリ・パラ 日向市がホストタウンに」
5. 2018/12/29 宮崎日日新聞 東京五輪ホストタウン登録 日向市相手国にトーゴ
6. 2019/1/4 毎日新聞 21年東京五輪・パラリンピック日向市、トーゴもホストタウンに 相互交流計画/宮崎
7. 2019/1/21 日本経済新聞 五輪「ホストタウン」半数決まらず 自治体と参加国が交流 アフリカなどなじみ薄く」
8. 2019/2/1 日向市広報誌 「トーゴ共和国ホストタウン登録」
9. 2019/2/20 毎日新聞 21年東京五輪・パラリンピック トーゴ選手らと交流へ ホストタウン日向市/宮崎
10. 2019/3/7 MRT宮崎放送 日向市にトーゴ人がやって来た！
11. 2019/3/7 NHK宮崎報道局 トーゴの選手らが日向市を訪問
12. 2019/3/7 夕刊デイリー新聞 トーゴ共和国のアスリートら日向を訪問-東郷学園児童と交流
13. 2019/3/7 毎日新聞 小学生と交流温める 西アフリカ・トーゴ陸上選手ら訪問 楽器と踊りで楽しく過ごす
14. 2019/3/8 毎日新聞 21年東京五輪・パラリンピック 小学生と交流温める 西アフリカ・トーゴの陸上選手ら訪問
日向・東郷学園/宮崎
15. 2019/3/9 宮崎日日新聞 イベント 【県北】トーゴ共和国ホストタウン交流イベント
16. 2019/3/15 宮崎日日新聞 トーゴ文化紹介 東京五輪へ交流 ホストタウン日向
17. 2019/8/9 UMK放送スーパーニュース ホストタウンが生むつながり 前駐日トーゴ大使が宮大生と交流 オリパラホストタウン関連事業 宮崎
18. 2019/8/24 毎日新聞 20年東京五輪・パラリンピック ダンス交流、再び 西アフリカ・トーゴの芸術家ら2人招き
32日・日向 /宮崎
19. 2019/8/29 宮崎日日新聞 イベント 【県北】ダンスDE国際交流with TOGO
20. 2019/8/31 UMKテレビ宮崎 「町の名前が緑でトーゴ共和国とダンスで交流 日向市東郷町」
21. 2019/9/2 夕刊デイリー新聞 ダンスで交流イベント トーゴ共和国のホストタウン-日向市
22. 2019/9/3 宮崎日日新聞 ダンスDE国際交流with TOGO
23. 2019/9/5 ケーブルテレビワイワイ トーゴ特集
24. 2019/9/7 MRT宮崎放送 トーゴ特別番組
25. 2019/11/4 朝日新聞 五輪・パラへ 食や競技体験「スポーツ&ホストタウンフェスタ」
26. 2019/11/4 宮崎日日新聞 東京オリ・パラ競技に挑戦 宮崎市 きょうまで体験催し
27. 2019/12/18 宮崎日日新聞 大会後も交流 井戸修復支援 トーゴのホストタウン・日向市
28. 2019/12/26 NHK宮崎報道局 日向市でトーゴの建国式典開催へ
29. 2020/1/1 毎日新聞 世界をもてなすホストタウン Welcom! My Town! (その2) /宮崎
30. 2020/1/1 西日本新聞 2021 TOKYO ホストタウン 笑顔つなぐ 東郷意気"投合"トーゴ
31. 2020/1/3 毎日新聞 世界をもてなすホストタウン/2 宮崎・日向 トーゴ(アフリカ) /宮崎
32. 2020/1/16 NHK宮崎報道局 東京五輪・パラでホストタウン 日向市の高校生がトーゴについて学ぶ
33. 2020/1/27 毎日新聞 トーゴのホストタウン、日向市取り組み報告 宮崎大で異文化理解セミナー
34. 2020/3/21 朝日新聞朝刊全国見開き 「朝日新聞主催、文部科学省・外務省共催の"大学SDGs ACTION! AWARDS 2020"の東京での最終選考会に出場し、ファイナリスト賞を獲得」
35. 2020/4/20 外務省地方連携課HP 「語感から始まった響き合うホストタウン交流(宮崎県日向市とトーゴ共和国との交流について)」
36. 2020/4/25 NHK外国語放送「ちきゅうラジオ」出演
37. 2020/7/21 毎日新聞朝刊(全国版) 「五輪とコロナ 触れ合いと「密」のはざまで悩めるホストタウン」にインタビューが掲載
38. 2020/9/29 UMKテレビ宮崎 「日向市とトーゴ共和国大使館などが協定締結 宮崎県」
39. 2020/9/30 NHK宮崎報道局 「日向市がトーゴ共和国を支援へ」
40. 2020/9/30 毎日新聞朝刊(地域版) 「トーゴ共和国と相互協力 東京五輪ホストタウンの日向市など3者協定 井戸修復支援事業や交流促進」
41. 2020/9/30 読売新聞朝刊(地域版) 「日向市 トーゴ支援へ協定 ホストタウン 大使館、友好協会と」
42. 2020/10/1 夕刊デイリー新聞 「トーゴ共和国 大使館・友好協会 相互協定 五輪ホストタウンの日向市 記念事業第1弾 現地の井戸1基を修復」
43. 2020/10/2 宮崎日日新聞 「東京五輪ホストタウンが緑 日向市 トーゴと協定 人道支援 井戸修復から」